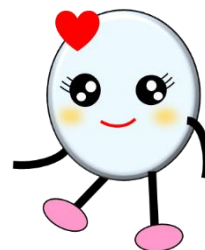


## 今年度の進化の数々 ～各校に訪問して～

令和4年度は社会教育青少年課小林・佐藤・島津の3名体制で山形市立小中高等学校に訪問し、学校運営協議会や地域学校協働活動について説明したり、相談を受けたり、会議や活動の様子を取材させていただいたりしました。令和4年9月1日には全ての市立小中高等学校がコミュニティ・スクールとなり、令和4年11月1日に31校に地協推進員が配置されました。そのため、コロナ禍で思うように動けなかった令和3年度と比べて、会議は深まり活動は多様化しました。今年度訪問させていただいた中で、印象的だったり学ばせていただいたりしたことのいくつかを掲載します。

### 【学校運営協議会】

- 学校運営協議会と生徒が交流した
- 会議内容の板書が大変工夫されていた
- 協議会会長選出を熟議した
- 活動の地域移行を熟議した
- 委員同士や学校と委員が気軽に対等にアイデアや意見を出し合っていた



### 【地域学校協働活動】

- 地域学校協働活動を年間指導計画に記載した（カリキュラムマネジメント）
- 地協推進員のコーディネートによる教職員研修を行った
- 夏休みの作品発送作業を地域学校協働活動として行った（先生方の働き方改革のため）

## みんなのコミュニティー『ほっとるうむ Dewa』開設予定

大郷小学校に続き、出羽小学校にも「ほっとるうむ」が開設される予定だそうです。須藤校長先生の思いが詰まったものです。毎週1回2時間ほど学校のスペースを開放し、子どもや保護者がおしゃべりや相談、不登校支援等を行います。令和5年4月より開設予定ですが、3月に2回試行しました。スクールボランティアである保護者7名の協力もあり、地域学校協働活動として行われます。ねらいは「①子どもや保護者が心を開くことができる場を増やすことで、子どもの成長や子育てを支えるとともに、学校にさらなる安心感を醸成する。②情報を共有することで、子どもへの支援や保護者との連携をより確かなものとする。」ということです。その名の通り、「温かい場所」となることを期待しています。

## 地域学校協働活動の広がり ～第2回地協推進員情報交換会～

昨年度、地協推進員の横の連携や情報交換を求める声が上がりました。そこで、今年度は学校運営協議会委員と合同の研修会を1回、地協推進員のための情報交換会を2回開きま

した。2月22日（水）はその第2回で江南公民館にて行いました。

最初に情報提供として、①学校運営協議会の機能と委員の役割について②活動状況報告書の様式変更について③地域における地域学校協働活動について、本課が説明を行いました。特に、②の書式変更についてたくさんのご意見をいただき、更なる改訂を後日行いました。次に5グループに分けた情報交換は濃密なものとなりました。今年度の主な3つの活動内容を発表し、その後工夫点やアイデア、苦労などを話し合いました。その内容は以下のようになりますが、活動の広がりやかがわかります。令和4年度の総括とも言える内容で、他の学校も大いに参考となる活動です。地協推進員の方々、ご尽力いただきありがとうございました。



### 【主な活動内容】

・新入生保護者説明会での学校案内と質疑応答 ・児童と共に行う清掃活動 ・図書整理 ・登下校の見守り ・生活科「むかしの遊び」の講師依頼とコーディネート ・生活科「まちたんけん」、総合学習「ちいき大すき」学区内企業訪問 ・総合学習「紅花」の学習や料理 ・千歳山の松の復活 ・150周年で4年生の田植踊りの伝承 ・読み聞かせ活動 ・あいさつ運動 ・見守り隊 ・畑の植え付けから収穫までのサポート ・田植え体験から感謝祭まで ・きのこ菌ぶち体験 ・自然観察会ときのこの収穫、試食会 ・授業補助 ・学校の歴史について ・創立70周年に向けて ・地区内企業、商店見学 ・りんごや苗づくり農家への体験授業 ・地区の昔の生活、今の生活（昔話）・環境保全に向けた写真展示会 ・地域の探検活動 ・通学路の安全点検 ・地元の人に縦割り班でボランティアの方々を登る ・竹を使ってミニ門松作りの手伝い ・お別れする校舎の思い出や写真アートについて地域へのアンケート協力 ・味噌作り、米作り（田植え、稲刈り）と販売 ・地区探検（お菓子屋、地区伝説みこし、サクランボ、鯉） ・ミシン学習ボランティア ・教職員研修（地域の魅力、地域の人材） ・雪かきボランティアの手配 ・体力別遠足のコース等、引率のお願い ・各地区町内会連合会役員と生徒会役員と学校職員の意見交換会 ・紅花栽培、紅花染め、コサージュ ・職場体験活動の受け入れ企業探し ・学校運営協議会事前打ち合わせ ・地域、学校連携した「あいさつ推進」の取り組みの話し合い



### 【工夫やアイデア、苦労等】

・学校運営協議会のあり方において実働メンバーが重要 ・学校運営協議会は各組織とのつながりが有効 ・町内会の組織を生かした見守り隊立ち上げ ・交通指導員の人選を町内会長へ依頼 ・QRコードを使ったチラシ ・オフィシャルライン ・コロナ禍で厳しい中で、校長先生との密接な関係を築くことができた ・活動は学校運営協議会が先に動いたが、学校運営協議会委員との協力関係ができたスクールボランティアと共に活動している ・人材バンクを作って活動を進めている ・地協推進員の地域の認知度を上げる ・交通指導員のなり手がないたため、グループで行う ・以前からの活動をさらに発展 ・地域のごみ問題の解決 ・はじめは校長先生と一緒にあいさつに行く ・コミセンや公民館とのタイアップ ・今ある活動に生徒が参加する ・地区内の活動や団体を把握しておいた方が良い（活動のバッティング等を防ぐ） ・学校に負担をかけないように学校側のニーズメインで動くようにしている ・「あいさつ運動」の学校側のニーズや課題を地域側も共有して協力する ・「親父の会」結成、トーチづくり、校章みがき ・学区が広くコミュニケーションが取りにくい ・生徒数が少ない ・地区内の人間関係が希薄 ・先生方とのコミュニケーション（先生方が多忙） ・既にある地域の組織と連携をとるべきか？